

## 令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

明成小学校	小学校教科推進校	理科・生活科
-------	----------	--------

## 1 研究の重点と具体的な取組

研究主題「『自力解決力』のある子供たちの育成」に迫るために以下の視点を設定し、重点的に取り組んだ。

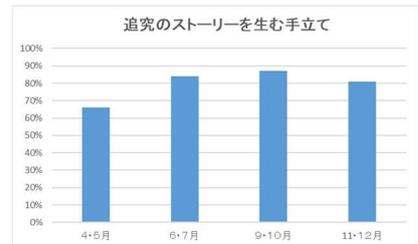
- 視点1 「追究のストーリー」を生む導入場面の工夫やゴールの明確化
- 視点2 見方・考え方を自覚的に働かせる（生かす）ことを促す「わざカード」の活用
- 視点3 個の学びを広げ深める「なるほどタイム」の設定

## 2 取組の検証

今年度の取組について教師・児童アンケートで検証した。

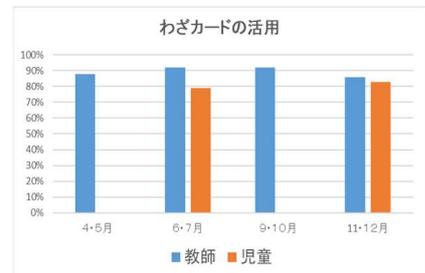
## (1) 視点1について

教師アンケートにおける肯定的回答は、4・5月は66%、6・7月が84%、9・10月が87%と向上した。教師が5W1Hを明確にするなどの学習課題の吟味を通して、児童が単元を通して主体的に学び続ける姿につながった。



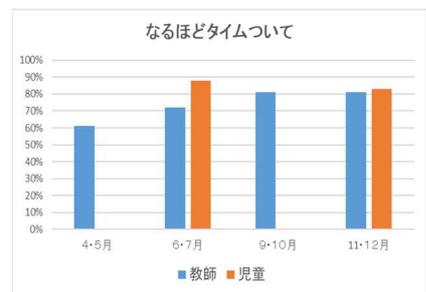
## (2) 視点2について

教師アンケートにおける肯定的回答は、4・5月は88%、6・7月が92%、9・10月が92%と高水準を維持した。また、児童アンケートにおいても、肯定的な回答が1学期は79%、2学期は83%と向上した。このことから、教師が理科・生活科の見方・考え方である「わざ」を提示することで、児童は自覚的に「わざ」を使い、思考・判断・表現することができた。



## (3) 視点3について

教師アンケートの肯定的回答は、4・5月は61%だったが9・10月が81%と大きく向上した。また、児童アンケートの肯定的回答が1学期は88%、2学期は83%と高水準であった。昨年度までの「見て見てタイム」を通して、児童は、話し合うよさについては気づいている。さらに、「なるほどタイム」の意識について児童と共有することができた。



## 3 成果と課題

視点1、2について成果があったので継続していく。

「なるほどタイム」については、児童は意欲的に話し合いを行えている。今後は、どういう場面を選択して行うかや、ICTをどのように活用していくことが効果的なのかなど、児童の考えを広めたり深めたりするための研究をしていく必要がある。